



# 出前講座報告書



2020年10月2日 いわき市保健福祉センター

## 🍃 テーマ「災害保健活動の実践から学ぶ地域保健活動の原点と保健師の役割 ～ソーシャルキャピタルを醸成する健康づくり&地域づくり活動～」

講義の前に、3名のいわき市の保健師の方から、昨年の台風19号での実践報告がありました。報告のテーマは、

- ①各期における保健活動の調整を通して
- ②応援派遣職員を受け入れて
- ③職員が被災を受けて、でした。

この報告では、どのような状況下でどのような判断・活動が行われたのか、振り返ってみての課題などが共有されました。災害においては、必要とされる支援が時間の経過とともに変化していくことも理解できました。



## 🍃 実践報告の様子



講義は、実践報告に対するコメントも含め、以下のような内容でした。

- ・昨年の台風19号での災害保健活動について共有した上で地域保健活動の原点と保健師の役割について。
- ・コロナ禍における感染防止の原則。
- ・東日本大震災の被災地では、被災者への支援活動と並行してソーシャルキャピタルの再構築やコミュニティ再生に向けた地域づくり活動が展求められていること。
- ・以上のような活動は、平時の備えとなる地域保健活動（受援力ともなる）として認識され、国から出された保健師活動の指針にも盛り込まれたこと等。

## 🍃 講師紹介



福島県立医科大学医学部  
災害公衆衛生学看護学講座  
教授 末永カツ子

### 略歴

- 自治体保健師として保健所、児童相談所、発達相談支援センター等に勤務。
- 東北大学大学院教育学研究科後期博士課程修了(教育学博士)。
- 東北大学医学系研究科 地域ケアシステム看護学分野教授。
- 長崎大学・福島県立医科大学 共同大学院 災害被ばく医療科学共同専攻教授。

### 専門領域

- 公衆衛生看護学
- 地域ケアシステム論

## 講義の様子

今回は、グループワーク等を行わず、座学形式で行いました。講義では、コロナ禍での災害時にも保健師活動の原点に立ち戻った活動が求められること、地域の人々と協働しての地域保健活動であることを学びました。この内容は、講義に先立ち行われたリーダー保健師たちの熱の入った報告とも重なる内容でした。3.11の大震災後に入職された方々が半数を占めるということでしたが、台風19号を経験された皆様の表情は真剣そのものでした。



## アンケート集計結果

参加者は44名、アンケート回収は42名でした。

評価項目	そう思う*
<b>研修の資料や進行について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 配布資料は適切だった</li> <li>● 時間配分は適切だった</li> <li>● 進行は適切だった</li> </ul>	81% 55% 83%
<b>講義について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義内容が理解できた</li> <li>● 講義は今後の保健活動に役立つと思う</li> <li>● 学んだことを同僚に伝えたいと思う</li> </ul>	81% 88% 83%
<b>演習について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 演習は今後の保健活動に役立つと思う</li> </ul>	48%
<b>あなたご自身について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う</li> <li>● 研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う</li> </ul>	57% 57%

\*5段階評価：「1.全くそう思わない」～「5.大いにそう思う」の4と5の合計

## 参加者の声（一部抜粋）

- 自分で考えて動けるよう、平常時からきちんと意識していこうと思いました。
- 保健師として、自分が担当する地域でどんなことができるか考えていきたい。
- 支援者としても被災者としても経験した昨年の台風の記憶を今後も忘れず、そして自分ができるところを平時から考えていきたいです。

## 復習ポイント

- ✓ 保健師の原点とは？
- ✓ 受援計画と業務（事業）継続計画が必要なのはなぜか？

